

人権意識の向上のために

【各教科・領域】 人権課題「高齢者」を取り上げた人権学習

第1学年の実践例(個別的な視点からの取組)

総合的な学習の時間 「認知症サポート講座」

目標

・認知症の基礎知識について正しく理解させるとともに、高齢者の人権について考え、高齢者に対して偏見をもたず、敬愛の気持ちを大切にしようとする態度を養う。

人権教育の視点

・身近にいる高齢者や家族、将来の自分自身に重ね合わせて講義を聴く活動を通して、世の中には高齢者に対する偏見や差別があることを理解させるとともに、差別のない社会を作り出そうとする態度を育てる。

活動

・荒川区内の地域包括支援センターとボランティアの方々に御協力をいただき、認知症に関するクイズやDVD教材の視聴と講義で認知症の基礎的な知識を学ぶとともに、寸劇による事例を通して、認知症の方に応じたような対応をしたらよいかなどを考えた。

成果

・認知症についての正しい基礎知識を知ったことで、高齢者に対して積極的に関わろうとする態度や、配慮しようという意識をもつことができた。



【各教科・領域】 人権課題「同和問題」を取り上げた人権学習

第3学年の実践例(個別的な視点からの取組)

社会科(歴史的分野) 『『解放令』から水平社へ』

目標

・明治政府により「解放令」が出された後も差別が続き、そしてそれをなくすための運動が起こり、水平社の結成につながっていくことを理解し、自他の人権を尊重したり人権問題を解決したりする上で具体的に役立つ知識を身に付けさせる。

人権教育の視点

・「解放令」が出された後の被差別部落の人々の生活や、大正時代の差別をなくすための運動の広がりについて調べることを通して、水平社創立の経緯や今もなお部落差別が残ることを理解させる。

活動

・授業では人権課題「同和問題」に関わり、「解放令」が出された後も続いた被差別部落の人々に対する差別について理解を深めるとともに、水平社が目指した社会や差別をどのように是正しようとしたのか調べる学習を行った。

成果

・誤った知識や無知、偏見が現在でも人権侵害を引き起こしていることなどについて理解を深めることができた。

・生徒一人一人が人権尊重という視点から歴史や現在起こっている現象や人権課題に関心を持ち、多様性を認め、差別を許さない姿勢の大切さを学ぶことができた。

